

平成30年2月21日

独立行政法人国立美術館

国立西洋美術館

記者レクの実施について

独立行政法人国立美術館国立西洋美術館では、フランスのルーヴル美術館で発見された松方コレクションであるモネの《睡蓮一柳の反映》の破損作品について、平成29（2017）年11月に寄贈を受けました。

つきましては、本作品の発見の経緯、今後の修復のスケジュール、修復後の展示予定等について、下記の日時及び場所にて記者レクを行う予定ですのでお知らせします。

記

案 件：モネの《睡蓮一柳の反映》の破損作品の発見の経緯、今後の修復、展示の予定について

日 時：平成30年2月26日（月）14時00分～

場 所：国立西洋美術館企画展示館地下2階講堂

説明者：

国立西洋美術館

館長 馬淵 明子（まぶち あきこ）

主任研究員 陳岡めぐみ（じんがおか めぐみ）

松方コレクションであるモネの《睡蓮一柳の反映》の破損作品について

2016年9月にルーヴル美術館内の収蔵庫において、損傷の激しいモネの大型油彩《睡蓮一柳の反映》がロールに巻かれた状態で見つかり、それが松方コレクションの一部であったことが確認された。同コレクションは第二次世界大戦末期に敵国財産としてフランス政府に接収されたが、1952年の平和条約の適用によって、同国政府に処分権が渡された。1959年、フランスの国立美術館のために取置かれた20点を除いて、絵画・彫刻等375点が日本政府へ寄贈返還され、これを核とし同年、国立西洋美術館が設立された。

なお、本作品は損傷により支持体（カンヴァス）の半分程度を失っているが、もし当初の状態が残っていれば、1959年に日本政府に引き渡され、現在当館で所蔵しているモネの《睡蓮》の2倍以上の大画面作品であったはずである。

本作品は、その存在は認識されていたものの、長らく行方がわからなかったもので、何らかの理由により1959年の日本への返還リストには含まれず、また、フランスの国立美術館に取置いた作品にも含まれなかったものである。今回、フランス政府は、本作品について、フランス政府の所有にはなっておらず、日本に返還することに異議はないと判断したため、このたび、本作品は原所有者である松方家より国立西洋美術館に寄贈された。

なお、本作品は、上記のように損傷が激しいため、今後、修復を進め、2019年6月からの開催を予定する「松方コレクション展」（仮称）において、展示を行う予定である。